

Published by the Buddhist Churches of America,
Southern District Ministers' Association with
funding from the Southern District Council.

Southern District Temples

- Arizona Buddhist Temple
- Buddhist Church of Santa Barbara
- Buddhist Temple of San Diego
- Gardena Buddhist Church
- Los Angeles Homba Hongwanji Buddhist Temple
- Orange County Buddhist Church
- Oxnard Buddhist Temple
- Pasadena Buddhist Temple
- San Fernando Valley Hongwanji Buddhist Temple
- Senshin Buddhist Temple
- Venice Hongwanji Buddhist Temple
- Vista Buddhist Temple
- West Los Angeles Buddhist Temple



Buddhist Churches of America

<http://buddhistchurchesofamerica.org>



この世と あの世



宮地 信雄
ガーデナ仏教会

少し古い話になるが、昔から心中（しんじゅう）ものという文学のスタイルがある。曾根崎心中や天の網島など心中や情死を題材とした江戸時代の人形浄瑠璃・歌舞伎・歌謡のジャンルである[1]。近松門左衛門の人形浄瑠璃でも知られる。「今生でちぎれない二人、きつとあの世にて結ばれよう」という恨み言葉で終わるのが落ちとなっている。このときの台詞に今生つまりこの世とあの世とが出て来るので、私達はあの世のことを死んでから後の世界と考えるのである。この世では添うことの出来なかった二人が共に命を絶って後の世、つまりあの世で結ばれようというのがこの言葉の意味であろう。

そうすると、この世とあの世という二つの世界が存在していてこの世は今生きている世界、あの世は死んでから生まれる世界ということになるのである。このことをよく考えてみると、この世は今現実に存在する世界であり、あの世というのは今は存在していないが死んでから存在する世界ということになる。つまり、世界に二つの世界があることになるのである。

従って、昔からあの世とは死んでから後の世界であってつまりは幽霊の世界ということになる。だからあの世というと私達はなんだか空恐ろしい世界のこととってしまうのである。私が今この世とあの世という題で話をするというところの人はあの怖い幽霊の世界のことと思うのであろう。

でも今私がしようとする「あの世」の話というのはそんなオドロシイ話の事ではなくて「この世」ではない世界のことである。この世の世界のことではない世界だからやはり死んでから後の世界になるとおもう人がいるかもしれない

佛教はあれとこれと分別する教えではなく、一如の世界を説く教えである。

がそれは間違いである。

この世ではない世界とは、この世以外の世界のことである。この世以外の世界とはこの世とは違う世界のことである。この世とは違う世界とは、何かこの世とは違う世界が他にあって、例えば地獄や浄土が別にあってその世界のことをいうのであるというのではなく、この世以外の世界であってどこかにそんな世界があるというのではないのである。つまり、存在する世界は一つであってその他に何か違う世界があるというのではないのである。

こういってもなかなか分かりにくいと思うので喩えを出してみよう。ここにコップ一杯の水があるとす。この水は今演題の上であればそれはのどを潤す甘露の水となるであろう。しかし、その中に水虫の様なものが居るとすればその水虫にとってこの一杯の水は心地よい住みかとなるであろう。しかし、そこに蠅が飛んできて浸かってしまったとしよう。そうすれば、この水は蠅にとって命を取りかねない恐ろしい武器になってしまうで

あろう。画家にとってはこの一杯の水はデッサンの対象になるかもしれない。そうするとこのコップ一杯の水はそれを見るものによって色々なものになるといえることが分かる。つまり水はコップ一杯の水だけれども、今私にとってそれは甘露の水であるが、水虫にとってそれは住み家となるのだから全く別のものといわなければならない。甘露の水と住み家が二つある訳ではないのである。一つの物が二つ三ついや四つの用を足していることになる。ここをいうのである。

この世とあの世とは同じ一つの世界であるが、見るものによってそれは地獄ともなりまた極楽ともなるのである。この世も同じ事である。この世を地獄と見るか極楽と見るかそれはひとえにこの私の見る目によるのである。この世自体が変わる事ではないのである。この世はあくまでも一つの世界である。これを佛教では一如（いちによ）というのである。

このことから考えてみれば、この世をいとい捨ててあの世に行こうとしてもそれは実は叶（かな）わない事で、結局は同じ世界の中を行ったり来たりしているにすぎないのである。この世とあの世とは実は同じ世界のことなのである。一つの世界を見ているにすぎない。仏の知恵の目を通せばこの世は極楽、煩惱だらけの私の目を通してみればこの世は地獄になるのである。この苦しい世界が本当は極楽、浄土なのである。だからこそ今この瞬間から見る角度を変えて極楽浄土に遊ぶ身にさせて頂こうではありませんか。

南無阿弥陀仏